

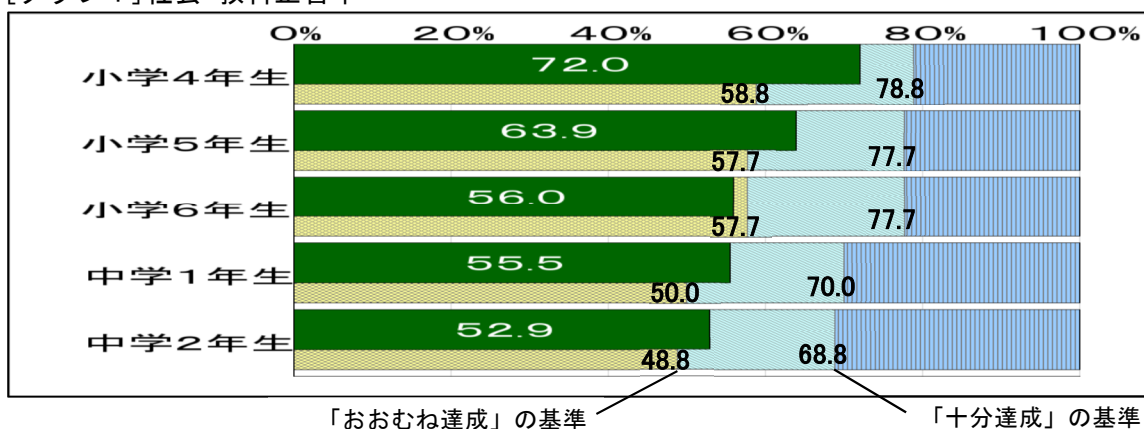
Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

社 会

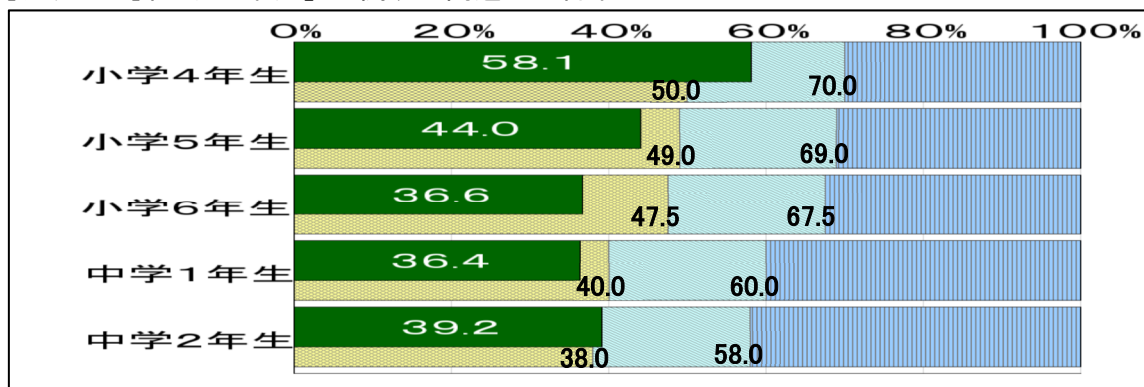
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小学4年生と小学5年生、中学校の全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、小学5年生と小学6年生、中学1年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、小学4年生と中学2年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「観察・資料活用（資料活用）の技能」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「社会的な思考・判断・表現」については、小学5年生と小学6年生、中学1年生、「社会的事象についての知識・理解」については、小学6年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～5]
- 内容・領域別に見ると、小学4年生の「地域の生産や販売」「地域社会の歴史」、中学1年生の「世界の地域構成」については、「十分達成」の基準を上回っている。小学5年生の「工業の様子」、小学6年生の「国土の様子（5年の学習内容）」「我が国の歴史」、中学1年生の「歴史の捉え方」、中学2年生の「世界の諸地域」については、「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ6～10]

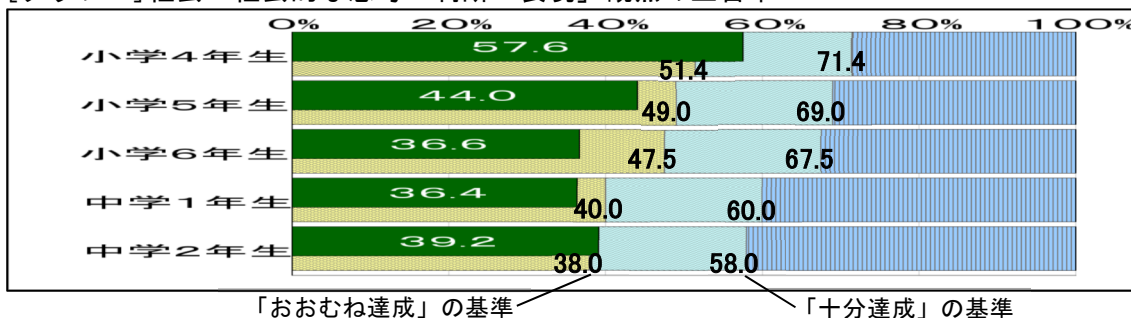
[グラフ1]社会 教科正答率



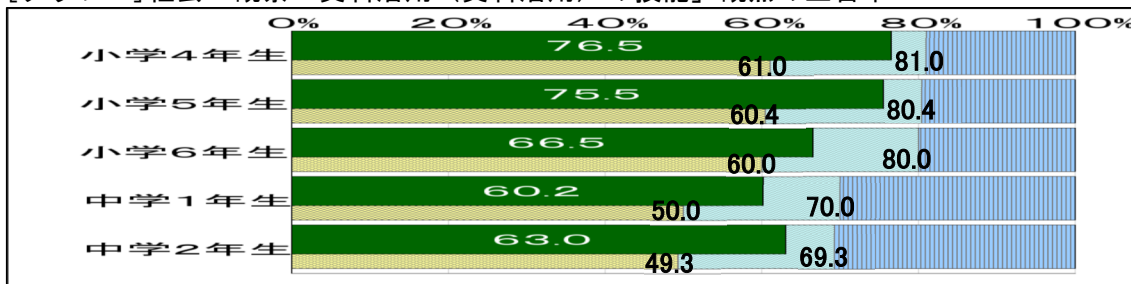
[グラフ2]社会 「活用」に関する問題の正答率



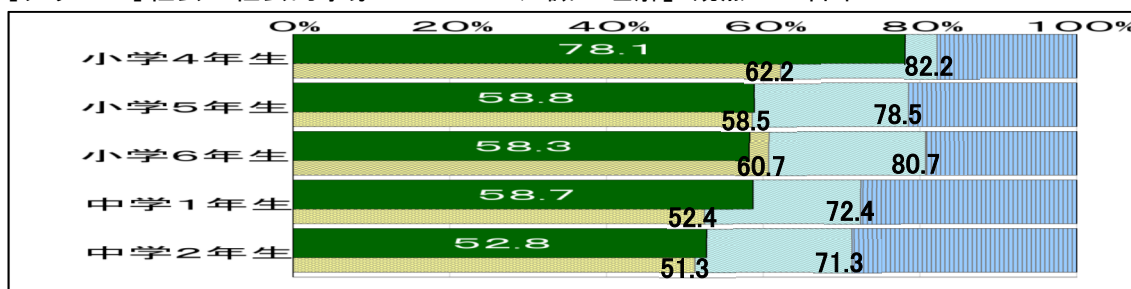
[グラフ3]社会「社会的な思考・判断・表現」観点の正答率



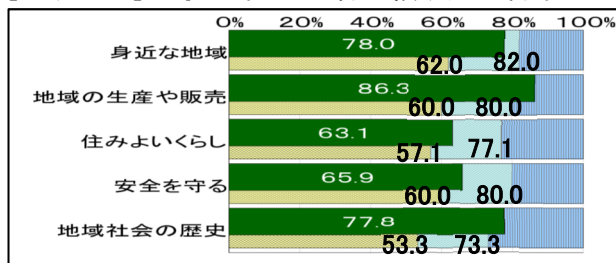
[グラフ4]社会「観察・資料活用（資料活用）の技能」観点の正答率



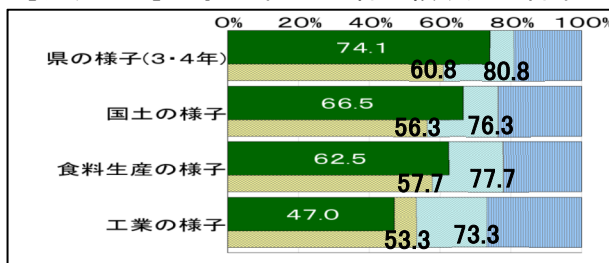
[グラフ5]社会「社会的事象についての知識・理解」観点の正答率



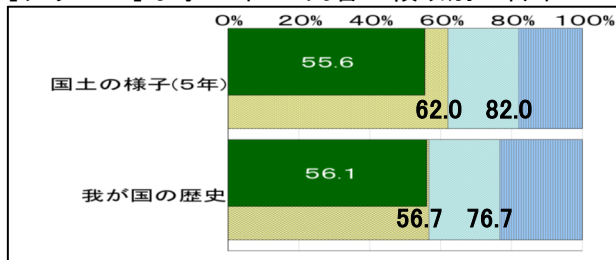
[グラフ6]小学4年生 内容・領域別正答率



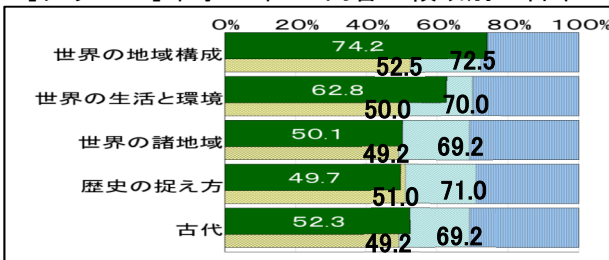
[グラフ7]小学5年生 内容・領域別正答率



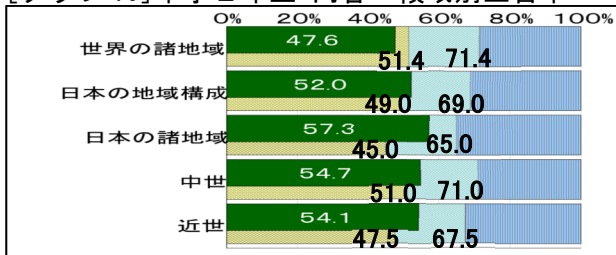
[グラフ8]小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ9]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10]中学2年生 内容・領域別正答率



※ [グラフ7]の「県の様子(3・4年)」という表記は、第3・4学年で学習する内容であることを示している。

※ [グラフ8]の「国土の様子(5年)」という表記は、第5学年で学習する内容であることを示している。

(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校社会（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 社会的事象の目的や理由に関する知識を記述することができている。
(小学4年生³(1)、小学6年生²(2))
- ◇ 資料から必要な情報を読み取ったり、適切な資料を選択したりする技能が身に付いている。
(小学4年生³(2)、小学5年生⁴(1)、小学6年生⁸(1)①)
- ◆ 1 資料から読み取った情報を基に考えたことを表現することに一部課題が見られる。
(小学5年生⁵(4)、小学6年生²(3))
- ◆ 2 資料から読み取った情報と知識とを関連付けて、学習問題を考えることに課題が見られる。
(小学4年生⁵(1)、小学校5年生⁶(1)、小学校6年生⁵(1))
- ◆ 3 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えることに課題が見られる。
(小学4年生⁶(4)、小学5年生²(3)、小学6年生³(3)⁵(2)²(8)(1)②)

指導改善のポイント

- ◆ 1 資料から読み取った情報を基に考えたことを表現する力を育成するためには、1単位時間もしくは単元の中に、調べて分かったことや考えたことを交流する活動を意図的に仕組むことが必要である。その際には、事実と考えを区別して書いたり話したりすることができるように指導することが必要である。また、「なぜなら」「理由は」など、考えの根拠を示す言葉を使って表現するように指導し、根拠を明確にして相手に分かるように書いたり話したりできるようにすることも大切である。
- ◆ 2 資料から読み取った情報と知識とを関連付けて、学習問題を考える力を育成するためには、提示した資料について、児童から疑問や予想を引き出したり、児童の発言やつぶやきなどに対して、「ゆさぶる発問」をしたりして、児童の「調べたい」という意欲を高めることが必要である。その際には、児童の言葉を使って学習問題を設定することや児童の疑問や予想を交流させ、「どの予想が正しいのだろう?」「調べてみないと分からない」などと調べる活動の必要性をもたせることが大切である。
- ◆ 3 社会的事象の特色や相互の関連、意味について考える力を育成するためには、社会の様子を調べさせた上で、「なぜ(何のために)～しているのか」「どのように～しているのか」といった、事実を基に思考を促す発問をすることが必要である。その際には、児童から様々な考えを引き出しながら、次のような追加の発問をし、比較・関連付け・総合しながら考えさせることが大切である。
 - 「同じところや違うところはどこですか」(比較して考えさせる)
 - 「つなげて、考えられるものはありますか」(関連付けて考えさせる)
 - 「一言で言うと、どういうことですか」「全部をまとめるとどういうことですか」(総合して考えさせる)



ぜひ ご活用ください! → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。単元を通して、児童が主体的に問い、調べ、考え、表現することができるような授業づくりのポイントについて提案しています。授業づくりに役立ててください。

(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

中学校社会（中学1年生、中学2年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 歴史的分野において、社会的事象に関係する人物についての基礎的な知識が身に付いている。
(中学1年生 $\boxed{6}$ (2)(6)、中学2年生 $\boxed{4}$ (4))
- ◇ 資料から適切な情報を読み取る技能が身に付いている。
(中学1年生 $\boxed{1}$ (4) $\boxed{2}$ (4) $\boxed{3}$ (1)①、中学2年生 $\boxed{1}$ (1)③ $\boxed{5}$ (1))
- ◆1 地理的分野において、緯度と経度を使って位置を読み取ったり、時差を求めたりする技能に課題が見られる。
(中学1年生 $\boxed{1}$ (3)、中学校2年生 $\boxed{2}$ (3)②)
- ◆2 社会的事象における概念的な知識の理解に課題が見られる。
(中学1年生 $\boxed{3}$ (2)① $\boxed{4}$ (1)(5) $\boxed{6}$ (3)(4)(5)、中学2年生 $\boxed{1}$ (1)② $\boxed{4}$ (1)(2) $\boxed{5}$ (4) $\boxed{6}$ (5)①)
- ◆3 資料を基に、社会的事象の特色や事象間を関連付けて説明することや社会的事象の意味や意義を解釈し、理由を説明することに課題が見られる。
(中学1年生 $\boxed{3}$ (1)③ $\boxed{5}$ (2)(6) $\boxed{6}$ (7)、中学2年生 $\boxed{5}$ (3) $\boxed{6}$ (4))

指導改善のポイント

- ◆1 緯度と経度を使って位置を読み取ったり、時差を求めたりする技能を身に付けさせるためには、緯線や経線といった線の種類やその線が示す緯度や経度によって位置を表すことを、具体的な事例を通して理解させる必要がある。地球儀や世界地図を用いて、本初子午線や赤道の位置を明示することで緯度や経度の基準を示し、ある地点を例に取り上げ、東経と西経、北緯と南緯の組み合わせで位置を表す方法を身に付けさせることも必要である。また、緯度や経度は、位置を表すだけではなく、世界の気候分布や時差といった内容と深い関連があることを理解させることが大切である。特に時差については、世界の国々の相対的な位置関係を理解させておく必要がある。単に時差を計算させるような指導だけでなく、海外のスポーツ中継の場面や国際電話で海外にいる人と話をする場面を想定することで、生徒に時差の実感をもたせることが大切である。
- ◆2 概念的な知識を理解できるようにするためには、単元や授業の前後に一問一答形式の小テストを実施したり、重要語句を確認するような発問を行ったりするだけではなく、例えば、歴史的分野において学習した内容を活用し、各時代の特色や歴史的事象の関連を説明させるなどの発問を意図的に行うことが必要である。また、単元や授業のまとめの際に、学習した内容を活用し、ワークシートにまとめるなどの表現活動を行うことで概念的な知識へと高めていくことが大切である。
- ◆3 資料から読み取った情報を基に、社会的事象の特色や事象間を関連付けて説明する力や社会的事象の意味や意義を解釈し、理由を説明する力を育成するには、適切な課題の設定や課題を追究する調査活動、表現活動を行い、習得した知識や概念を活用する学習に取り組ませることが必要である。そのためには、社会的事象に関する具体的な事実を示す写真やグラフなどの資料を提示し、生徒の関心をもたせ、そこから生まれる生徒の疑問や気付きから「なぜ?」「どのように(な)?」などの単元を通した課題を設定させる場面やその課題を追究・解決する活動を行わせることで生徒の主体的な学習を促すことが大切である。また、追究し解決する活動の中で資料から読み取った情報を基に、理由を考えさせたり、自分の考えを説明させたりする活動などを充実させることが大切である。その際、例えば「どの資料からそのように考えたのか?」など、理由や考えの根拠を問い直す発問をすることも大切である。



ぜひ ご活用ください! → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。「意思決定を取り入れた討論型の学習」を基にした単元づくりの中で、学習問題を設定して意思決定を迫る学習活動について提案しています。授業づくりに役立ててください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

[表1] 小学校4年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,404	72.0	2.5	78.8	58.8	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	身近な地域	5	78.0	0.8	82.0	62.0	
	地域の生産や販売	4	86.3	1.1	80.0	60.0	◎
	住みよいくらし	7	63.1	2.7	77.1	57.1	
	安全を守る	7	65.9	3.2	80.0	60.0	
	地域社会の歴史	3	77.8	4.8	73.3	53.3	◎
評価の観点	①思考・判断・表現	7	57.6	4.2	71.4	51.4	
	②技能	10	76.5	1.5	81.0	61.0	
	③知識・理解	9	78.1	2.1	82.2	62.2	
問題形式	選択式	11	76.1	0.8	80.5	60.5	
	短答式	9	72.0	3.5	81.1	61.1	
	記述式	6	64.4	4.0	72.5	52.5	
活用	「活用」に関する問題	4	58.1	5.0	70.0	50.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		身近な地域	地域の生産や販売	住みよいくらし	安全を守る	地域社会の歴史	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式				短答式	記述式	問題分類	
1	(1) 学校の周りの様子について、適切に調べることができる	○					○		○			54.8	0.1	A	85	65	▼
1	(2)ア 主な地図記号を理解している(市役所)	○					○		○			74.8	2.7	A	85	65	
1	(2)イ 主な地図記号を理解している(病院)	○					○		○			94.8	0.6	A	85	65	◎
1	(3) 地図から、必要な情報を読み取ることができる	○					○		○			74.0	0.2	B	80	60	
2	資料から読み取った情報を基に、地図を選択することができる	○					○		○			91.5	0.2	C	75	55	◎
3	(1) 販売の仕事に見られる工夫について理解している(看板)	○					○		○			93.0	1.1	B	80	60	◎
3	(2)メモ1 資料から、スーパーマーケットの集客の工夫を読み取ることができる(陳列の工夫)	○					○		○			94.5	0.2	B	80	60	◎
3	(2)メモ2 資料から、スーパーマーケットの集客の工夫を読み取ることができる(駐車場の工夫)	○					○		○			97.0	0.2	A	85	65	◎
3	(3) 資料を基に、販売の仕事に見られる工夫について、考えることができる	○					○		○			60.7	2.8	C	75	55	
4	(1) 清掃工場の仕組みを理解している	○					○		○			85.2	0.2	A	85	65	◎
4	(2) 資料から、ごみの出し方を読み取ることができる	○					○		○			72.3	0.3	B	80	60	
4	(3) 資料を基に、ごみ処理の工夫について説明することができる	○					○		○	○		58.6	6.1	E	65	45	
4	(4) 学級や学校でできるごみ削減の方法を考えたることができる	○					○		○	○		63.0	3.3	C	75	55	
5	(1) 資料と発言の内容を基に、学習問題を考えることができる	○					○		○	○		42.8	4.9	C	75	55	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		身近な地域	地域の生産や販売	住みよいくらし	安全を守る	地域社会の歴史	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解				選択式	短答式	記述式	
5	(2)	水道水が家や学校に送られるまでの流れを理解している	○					○			66.4	0.7	B	80	60	
5	(3)	森林の働きについて理解している	○					○			53.1	3.6	B	80	60	▼
6	(1)ア	グラフから、交通事故発生件数の変化を読み取ることができる		○				○			80.3	3.0	A	85	65	
6	(1)イ	資料から、交通事故発生の原因を読み取ることができる		○				○			75.8	3.4	A	85	65	
6	(2)	警察官の仕事に関する疑問を適切に調べることができる		○				○			49.9	1.5	B	80	60	▼
6	(3)①	警察の施設の1つである交番を理解している		○				○			80.6	2.9	B	80	60	◎
6	(3)②	通信指令室から消防署に連絡が入る理由について考えることができる		○			○	○			62.0	2.1	C	75	55	
6	(4)	資料を基に、地域の事故防止や防犯に努めている人々の取り組みについて考えることができる		○			○	○			48.1	4.6	D	70	50	▼
6	(5)	事故や事件をなくすために大切なことを理解している		○				○			64.9	4.8	A	85	65	▼
7	(1)	昔の道具について調べたことを、カードにまとめることができる			○			○			75.3	6.1	C	75	55	◎
7	(2)	道具の移り変わりを理解している			○			○			90.1	2.7	B	80	60	◎
7	(3)	昔と今の道具を示した資料を基に、人々のくらしの変化について説明することができる			○			○	○		68.0	5.8	E	65	45	◎

[表2] 小学校5年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,171	63.9	3.5	77.7	57.7	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	県の様子(3・4年)	6	74.1	0.5	80.8	60.8	
	国土の様子	4	66.5	2.8	76.3	56.3	
	食料生産の様子	15	62.5	4.6	77.7	57.7	
	工業の様子	3	47.0	5.5	73.3	53.3	▼
評価の観点	①思考・判断・表現	5	44.0	7.0	69.0	49.0	▼
	②技能	13	75.5	1.2	80.4	60.4	
	③知識・理解	10	58.8	4.9	78.5	58.5	
問題形式	選択式	16	71.4	1.1	80.3	60.3	
	短答式	5	65.0	6.3	79.0	59.0	
	記述式	7	46.0	7.2	70.7	50.7	▼
活用	「活用」に関する問題	5	44.0	7.0	69.0	49.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		県の様子(3・4年)	国土の様子	食料生産の様子	工業の様子	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式				短答式	記述式	問題分類	
1	(1) 自分が通う小学校がある市や町の地理的な位置を理解している	○					○	○			81.4	1.8	A	85	65	
1	メモ1 (2) 地図から県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(玄界灘)	○					○	○			71.2	0.3	B	80	60	
1	メモ2 (2) 地図から県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(佐賀平野)	○					○	○			82.1	0.3	B	80	60	◎
1	メモ3 (2) 地図から県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(有明海)	○					○	○			69.8	0.3	B	80	60	
1	メモ4 (2) 地図から県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(脊振山地)	○					○	○			85.8	0.3	B	80	60	◎
1	(3) 福井県の位置を理解している	○					○	○			54.5	0.2	B	80	60	▼
2	(1) 地図から、日本の南端の島を読み取ることができる	○					○	○			69.6	0.2	B	80	60	
2	(2)ア 日本の位置を地図から読み取ることができる	○					○	○			92.9	0.9	B	80	60	◎
2	(2)イ 日本の位置を地図から読み取ることができる	○					○	○			71.1	1.8	B	80	60	
2	(3) 資料を基に、山地に挟まれた高松市の降水量が少ない理由について説明することができる	○					○	○	○		32.6	8.0	E	65	45	▼
3	(1) 米づくりが盛んなことを示す資料を選ぶことができる	○					○	○			51.7	0.2	B	80	60	▼
3	(2) グラフから、農業従事者数の変化を読み取ることができる	○					○	○			76.9	0.2	B	80	60	
3	(3) 米の生産量を抑える政策である生産調整を理解している	○					○	○			13.4	19.5	B	80	60	▼
3	(4) 農家同士が共同作業をしている理由を理解している	○					○	○			67.7	0.3	C	75	55	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		県の様子 (3・4年)	国土の様子	工業の様子 食料生産の様子	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
3	(5)	米づくりの新しい取り組みを示す資料を選ぶことができる	○				○				77.4	0.4	B	80	60		
4	(1)	資料から、水揚げ量が多い漁港を読み取ることができる	○				○				85.4	0.3	A	85	65	◎	
4	(2)	大陸棚に魚がたくさん集まる理由を理解している	○					○			63.4	5.3	B	80	60		
4	(3)	遠洋漁業の生産量が減ってきている理由を理解している。	○					○			38.4	10.1	D	70	50	▼	
4	(4)①	市場で魚の値段を付けることがせりであることを理解している	○					○			75.3	5.0	B	80	60		
4	(4)②	資料を基に、トラックで魚を運ぶ際の工夫について説明することができる	○				○		○		76.3	4.6	C	75	55	◎	
5	(1)	直売所とトレーサビリティの取り組みにおける生産者の工夫を理解している	○					○			72.5	4.5	C	75	55		
5	(2)	地産地消の取り組みを理解している	○					○			64.4	0.9	B	80	60		
5	(3)①	日本の穀物の自給率を表すグラフを選ぶことができる	○					○			71.8	4.3	B	80	60		
5	(3)②	日本の食料輸入額の変化を表すグラフを選ぶことができる	○					○			75.7	5.5	B	80	60		
5	(4)	資料を基に、食料自給率を高める理由について説明することができる	○				○		○		27.1	7.4	E	65	45	▼	
6	(1)	資料を基に、自動車の現地生産についての学習問題を考えることができる	○				○		○		24.7	6.3	D	70	50	▼	
6	(2)	自動車の生産過程を理解している	○					○			56.9	1.7	B	80	60	▼	
6	(3)	資料を基に、自動車工場と関連工場、関連工場同士の関係から考えられる問題点について説明することができる	○				○		○		59.3	8.5	D	70	50		

[表3] 小学校6年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,448	56.0	2.8	77.7	57.7	▼

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	国土の様子(5年)	5	55.6	1.8	82.0	62.0	▼
	我が国の歴史	23	56.1	3.0	76.7	56.7	▼
評価の観点	①思考・判断・表現	6	36.6	5.6	67.5	47.5	▼
	②技能	8	66.5	1.7	80.0	60.0	
	③知識・理解	14	58.3	2.3	80.7	60.7	▼
問題形式	選択式	11	69.9	0.2	81.4	61.4	
	短答式	7	49.2	4.4	80.7	60.7	▼
	記述式	10	45.5	4.5	71.5	51.5	▼
活用	「活用」に関する問題	6	36.6	5.6	67.5	47.5	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		国土の様子(5年)	我が国の歴史		①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
1	(1) 三海洋の名称と位置を理解している	○				○		○			76.5	0.0	A	85	65	
1	(2) 地図から、大韓民国の位置を読み取ることができる	○				○		○			73.2	1.9	B	80	60	
1	(3)ア 地図から、日本の西端の島を読み取ることができる	○				○		○			62.2	1.4	A	85	65	▼
1	(3)イ 沖ノ島島と南鳥島が属する都道府県が東京都であることを理解している	○				○		○			34.4	3.6	B	80	60	▼
1	(3)ウ 日本が抱える領土問題を理解している(尖閣諸島)	○				○		○			31.7	1.9	B	80	60	▼
2	(1) 邪馬台国を治めた人物が卑弥呼であることを理解している	○				○		○			92.4	0.0	A	85	65	◎
2	(2) 米作りに適した土地や水などをめぐって、むら同士の争いがあったことを理解している	○				○		○			79.3	1.1	C	75	55	◎
2	(3) 資料を基に、縄文時代から弥生時代にかけて生活が変化したことを説明することができる	○				○		○	○		60.3	2.0	D	70	50	
3	(1) 日本の仏教の発展に貢献した鑑真の業績を理解している	○				○		○			73.3	0.1	A	85	65	
3	(2) 仏教の力によって、国づくりを進めた聖武天皇の考えを理解している	○				○		○			68.8	1.9	B	80	60	
3	(3) 資料を基に、日本が中国を通じ、大陸の文化を取り入れていたことを説明することができる	○				○		○	○		17.4	6.7	E	65	45	▼
4	(1) 源氏と平氏の戦いで活躍した人物が源義経であることを理解している	○				○		○			56.9	5.0	A	85	65	▼
4	(2) 資料から、鎌倉の地形の特徴を読み取ることができる	○				○		○			35.7	3.7	B	80	60	▼
4	(3) 御恩と奉公の関係が崩れたことを示す資料を選ぶことができる	○				○		○			65.3	0.3	C	75	55	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県 正 答 率	県 無 解 答 率	期待 正 答 率		到達 状 況	
		国 土 の 様 子 (5 年)	我 が 国 の 歴 史	① 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	② 技 能	③ 知 識 ・ 理 解	選 択 式	短 答 式	記 述 式	問 題 分 類				十 分 達 成	お お む ね 達 成		
5	(1)	発言の内容を基に、江戸幕府の政治についての学習問題を考えることができる	○							○	○	25.0	2.4	D	70	50	▼
5	(2)①	江戸幕府がキリスト教徒を取り締まった理由を示す資料を選ぶことができる	○							○		63.8	0.2	B	80	60	
5	(2)②	資料を基に、江戸幕府による大名配置の工夫について説明することができる	○							○	○	38.0	7.3	E	65	45	▼
6	(1)	江戸時代の町人文化や新しい学問を担った人物を理解している	○							○		74.8	0.2	B	80	60	
6	(2)	歌舞伎の様子を示した資料を選ぶことができる	○							○		93.9	0.2	A	85	65	◎
6	(3)	江戸時代後半の文化の担い手が町人であることを理解している	○							○		51.6	0.2	B	80	60	▼
7	(1)	明治政府の中心となった木戸孝允と大久保利通について理解している	○							○		26.4	0.3	B	80	60	▼
7	(2)	不平等条約の内容を理解している	○							○		64.4	0.3	B	80	60	
7	(3)①	資料を基に、地租改正によって国の収入が安定した理由を説明することができる	○							○	○	44.2	7.9	E	65	45	▼
7	(3)②	検地の目的を理解している	○							○		49.8	13.0	C	75	55	▼
8	(1)①	第一次世界大戦後の日本の様子を表す資料を選ぶことができる	○							○		86.1	0.8	B	80	60	◎
8	(1)②	資料を基に、日本が満州に進出した理由について説明することができる	○							○	○	34.8	7.1	D	70	50	▼
8	(2)	資料から、戦争中の生活の様子を読み取ることができる	○							○		51.8	4.9	C	75	55	▼
8	(3)	終戦直前に、満州や樺太南部、千島列島にソビエト連邦が攻め込んできたことを理解している	○							○		36.1	4.3	B	80	60	▼

[表4] 中学校1年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,172	55.5	6.5	70.0	50.0	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	世界の地域構成	4	74.2	0.5	72.5	52.5	◎
	世界の生活と環境	4	62.8	4.8	70.0	50.0	
	世界の諸地域	6	50.1	13.1	69.2	49.2	
	歴史の捉え方	5	49.7	5.3	71.0	51.0	▼
	古代	13	52.3	6.2	69.2	49.2	
評価の観点	①思考・判断・表現	5	36.4	13.9	60.0	40.0	▼
	②技能	6	60.2	1.0	70.0	50.0	
	③知識・理解	21	58.7	6.3	72.4	52.4	
問題形式	選択式	15	57.3	1.3	71.3	51.3	
	短答式	12	61.3	9.9	72.5	52.5	
	記述式	5	36.4	13.9	60.0	40.0	▼
活用	「活用」に関する問題	5	36.4	13.9	60.0	40.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		世界の地域構成	世界の生活と環境	世界の諸地域	歴史の捉え方	古代	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式				短答式	記述式	問題分類	
1	(1)	太平洋の位置と名称を理解している	○					○		○		88.4	1.2	A	75	55	◎
1	(2)	海洋と陸地の面積の比率を理解している	○					○		○		90.6	0.2	A	75	55	◎
1	(3)	資料に示されたりオデジャネイロの緯度と経度を読み取ることができる	○					○		○		28.9	0.3	B	70	50	▼
1	(4)	地図の索引を用いて、都市の位置を読み取ることができる	○					○		○		88.8	0.4	B	70	50	◎
2	(1)	乾燥した地域に見られるオアシスを理解している	○					○		○		72.0	9.1	A	75	55	
2	(2)	標高の高い地域に住む人々の衣服を理解している	○					○		○		61.2	0.4	A	75	55	
2	(3)	資料を基に、地中海沿岸の温帯地域で乾燥に強いオリーブが多く栽培されている理由を説明することができる	○					○		○	○	45.7	9.1	D	60	40	
2	(4)	資料から、インドで信仰されている宗教がヒन्दウー教であることを読み取ることができる	○					○		○		72.2	0.6	B	70	50	◎
3	(1)①	資料から、西アジアの石油の産出が多い地域であるペルシア(ペルシャ)湾の位置を読み取ることができる	○					○		○		70.5	1.5	B	70	50	◎
3	(1)②	西アジアの産油国が中心となって結成された組織が、石油輸出国機構(OPEC)であることを理解している	○					○		○		42.3	17.7	B	70	50	▼
3	(1)③	資料を基に、日本に比べ、クウェートの一人当たりの国内総生産の増減が年によって大きく変化している理由を説明することができる	○					○		○	○	26.1	22.8	D	60	40	▼
3	(2)①	アフリカ州の特徴について理解している	○					○		○		35.4	1.5	B	70	50	▼
3	(2)②	希少金属であるレアメタルを理解している	○					○		○		67.6	15.6	A	75	55	
3	(2)③	アフリカ州の国々に多いモノカルチャー経済を理解している	○					○		○		58.5	19.6	B	70	50	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		世界の地域構成	世界の諸地域	歴史の捉え方	古代	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
4	(1)	時代を区分した方法について理解している			○			○	○			40.8	2.0	B	70	50	▼	
4	(2)	イエス(イエス・キリスト)が生まれたとされる年を基準にした年代の表し方である「西暦(西暦年)」を理解している			○			○	○			71.3	1.1	A	75	55		
4	(3)	「西暦(西暦年)」を100年単位とした年代の表し方である「世紀」を理解している			○			○	○			36.4	8.7	B	70	50	▼	
4	(4)	「年号(元号)」を使った時代の表し方を理解している			○			○	○			66.4	13.2	B	70	50		
4	(5)	社会のしくみの特徴によって時代区分された「古代」を理解している			○			○	○			33.6	1.5	B	70	50	▼	
5	(1)	日本列島が、大陸と陸続きだった当時の人々の生活の様子について理解している			○			○	○			67.8	0.9	B	70	50		
5	(2)	資料を基に、縄文時代から弥生時代にかけて人口が増加した理由を説明することができる			○		○		○	○		35.4	8.1	D	60	40	▼	
5	(3)	古墳時代に多く見られた前方後円墳を理解している			○			○	○			77.8	6.9	A	75	55	◎	
5	(4)	資料から、奈良時代の農民が負担した税を読み取ることができる			○		○		○			56.2	1.7	B	70	50		
5	(5)	平安京に都を移した桓武天皇を理解している			○			○	○			34.2	9.2	B	70	50	▼	
5	(6)	資料を基に、藤原氏が力を強めていった理由を説明することができる			○		○		○	○		37.6	13.1	D	60	40	▼	
6	(1)	資料から、金印が発見された志賀島の位置を読み取ることができる			○			○	○			44.7	1.8	B	70	50	▼	
6	(2)	邪馬台国の女王が卑弥呼であることを理解している			○			○	○			85.8	5.1	A	75	55	◎	
6	(3)	5世紀ごろの東アジアとの対外関係について理解している			○			○	○			36.7	2.8	B	70	50	▼	
6	(4)	渡来人によって日本に伝えられたものを理解している			○			○	○			43.3	1.6	B	70	50	▼	
6	(5)	飛鳥時代に栄えた飛鳥文化を理解している			○			○	○			33.7	11.5	A	75	55	▼	
6	(6)	唐から来日した鑑真を理解している			○			○	○			89.4	1.7	A	75	55	◎	
6	(7)	資料を基に、国風文化の内容を説明することができる			○		○		○	○		37.3	16.5	D	60	40	▼	

[表5] 中学校2年生 社会 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

県	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,312	52.9	8.0	68.8	48.8	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	世界の諸地域	7	47.6	7.8	71.4	51.4	▼
	日本の地域構成	5	52.0	6.6	69.0	49.0	
	日本の諸地域	5	57.3	9.2	65.0	45.0	
	中世	5	54.7	7.6	71.0	51.0	
	近世	10	54.1	8.3	67.5	47.5	
評価の観点	①思考・判断・表現	5	39.2	19.5	58.0	38.0	
	②技能	7	63.0	2.6	69.3	49.3	
	③知識・理解	20	52.8	6.9	71.3	51.3	
問題形式	選択式	18	61.0	1.3	70.3	50.3	
	短答式	9	44.4	14.9	71.7	51.7	▼
	記述式	5	39.2	19.5	58.0	38.0	
活用	「活用」に関する問題	5	39.2	19.5	58.0	38.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		世界の諸地域	日本の地域構成	日本の諸地域	中世	近世	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1)①	アンデス山脈の位置と名称を理解している	○					○		○			46.1	4.5	A	75	55	▼	
1	(1)②	南アメリカの歴史と文化について理解している	○					○		○			28.5	0.6	B	70	50	▼	
1	(1)③	資料から、さとうきびの生産量の変化を読み取ることができる	○					○		○			76.4	0.5	B	70	50	◎	
1	(1)④	アマゾン川流域の環境問題について理解している	○					○		○			71.8	0.7	B	70	50	◎	
1	(2)①	オーストラリアの先住民を理解している	○					○		○			26.1	27.6	A	75	55	▼	
1	(2)②	資料から、日本の石炭の輸入先や生産量と輸入量の関係を読み取ることができる	○					○		○			60.6	1.3	B	70	50		
1	(2)③	オーストラリアで進んでいる多文化社会(主義)を理解している	○					○		○			23.4	19.3	B	70	50	▼	
2	(1)	資料から、日本の位置を読み取ることができる	○					○		○			65.9	0.7	B	70	50		
2	(2)①	日本の北端の島である択捉島と西端の島である与那国島の名称と位置を理解している	○					○		○			57.8	0.8	A	75	55		
2	(2)②	資料を基に、日本政府が沖ノ鳥島の護岸工事を行った理由を説明することができる	○					○		○	○		40.0	16.4	D	60	40		
2	(3)①	15度の経度差で1時間の時差が生じることを理解している	○					○		○			71.2	3.0	A	75	55		
2	(3)②	資料から、日本が1月1日午前9時の時のロサンゼルスの日付と時刻を読み取ることができる	○					○		○			24.9	12.1	C	65	45	▼	
3	(1)	資料から、太平洋側の気候の雨温図を読み取ることができる	○					○		○			50.2	1.4	B	70	50		
3	(2)	火山の近くにその恵みを生かした温泉が分布していることを理解している	○					○		○			73.4	8.2	B	70	50	◎	

設問別集計結果

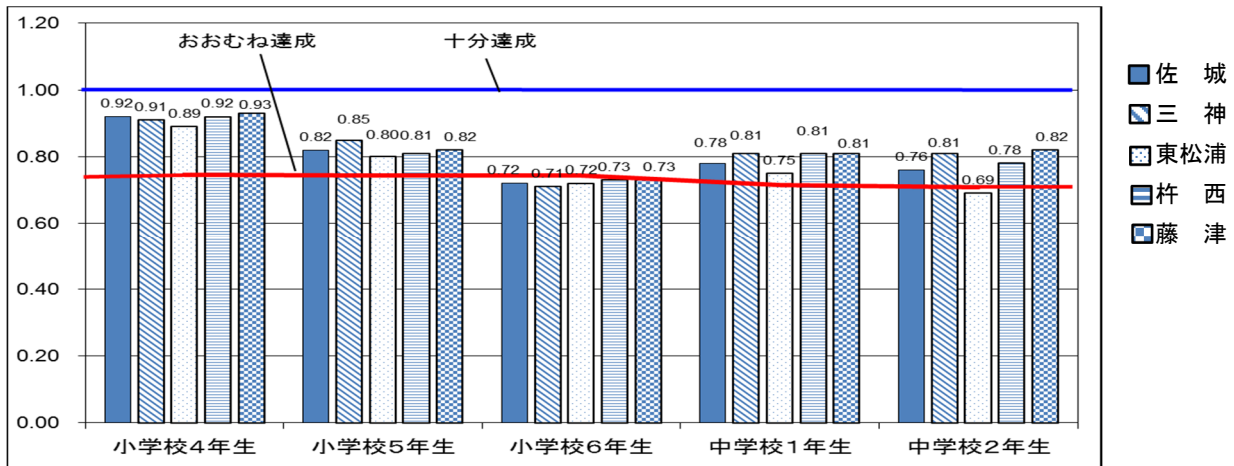
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等			評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		世界の諸地域	日本の地域構成	中世 近世	①思考・判断・表現	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
3	(3)	資料を基に、鹿児島県の農業の特徴をシラスと関連付けて説明することができる	○				○			○	○	55.9	13.3	D	60	40	
3	(4)	北九州市の環境を守る取組について理解している	○					○				61.7	1.2	B	70	50	
3	(5)	資料を基に、本州四国連絡橋や高速道路の整備と関連付けて、他地域との結び付きが変化した理由を説明することができる	○				○			○	○	45.4	22.0	E	55	35	
4	(1)	平清盛が行った政治について理解している		○				○				38.6	1.5	B	70	50	▼
4	(2)	鎌倉幕府の仕組みを理解している		○					○			19.5	14.1	B	70	50	▼
4	(3)	元寇の際に防塁(石塁)が築かれた理由を理解している		○					○			73.7	1.1	B	70	50	◎
4	(4)	南北朝の動乱(内乱)を鎮めた足利義満を理解している		○					○			79.6	0.9	B	70	50	◎
4	(5)	下の身分の者が上の身分の者を倒す風潮である下剋上を理解している		○					○			62.0	20.5	A	75	55	
5	(1)	資料から、鉄砲を読み取ることができる			○				○			93.7	1.1	B	70	50	◎
5	(2)	織田信長が行った楽市・楽座を理解している			○					○		69.7	1.0	B	70	50	
5	(3)	資料を基に、太閤検地と刀狩によって兵農分離が進んだ理由を説明することができる			○			○			○	26.2	19.5	D	60	40	▼
5	(4)	朝鮮侵略が日本に与えた影響について理解している			○				○			37.6	1.7	B	70	50	▼
6	(1)	資料から、江戸幕府の支配体制を読み取ることができる			○				○			69.3	1.5	B	70	50	
6	(2)	大名を統制するために制定された武家諸法度を理解している			○					○		53.0	24.7	B	70	50	
6	(3)	江戸時代に蝦夷地との窓口になっていた松前藩の位置を理解している			○				○			63.3	2.7	B	70	50	
6	(4)	資料を基に、江戸幕府が朱子学を奨励した理由を説明することができる			○			○			○	28.5	26.6	E	55	35	▼
6	(5)①	徳川綱吉が行った政治について理解している			○				○			43.5	2.5	B	70	50	▼
6	(5)②	徳川吉宗、田沼意次、松平定信が政治(政治改革)を行った時期を理解している			○				○			56.2	2.1	B	70	50	

(4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別教科正答率の「十分達成」に対する状況は、小学校4・5年生、中学校1年生で、5地域とも「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ11]
- 県内5地域における学年別教科正答率の対県比は[表6]のとおりで、中学校2年生で地域差が最も大きい。また、平成27年度12月調査と比べて、小学校5年生と中学校1年生で地域差が縮小し、小学校4年生と中学校2年生で拡大している。

[グラフ11] 県内5地域における学年別教科正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表6] 県内5地域における学年別教科正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域教科正答率/県教科正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校4年生	社会	H28[12月]	1.01	1.00	0.97	1.00	1.02	拡 0.05
		H27[12月]	0.99	1.01	0.99	1.01	1.02	0.03
小学校5年生	社会	H28[12月]	1.00	1.03	0.98	0.99	1.00	縮 0.05
		H27[12月]	0.99	1.02	0.96	1.01	1.04	0.08
小学校6年生	社会	H28[12月]	1.00	0.98	0.99	1.01	1.02	0.04
		H27[12月]	1.01	1.00	0.98	1.00	1.02	0.04
中学校1年生	社会	H28[12月]	0.99	1.03	0.94	1.03	1.03	縮 0.09
		H27[12月]	1.00	1.04	0.92	1.00	1.08	▲ 0.16
中学校2年生	社会	H28[12月]	0.99	1.05	0.90	1.02	1.06	▲拡 0.16
		H27[12月]	0.99	1.05	0.93	1.01	1.00	▲ 0.12

※ 「対県比」は、県正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「縮」は、平成27年度[12月調査]より地域差が縮小した教科を、「拡」は拡大した教科を示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町